

天草市・重点プロジェクト
◎ 自然とともに創るまち

～奇跡の海を未来へ～ イルカと共存できる環境づくり

通詞島沖イルカ環境実態調査事業

天草市 市民環境課

天草市（熊本県）の概要

・H18年3月27日
2市8町が合併

・人口約7万3千人

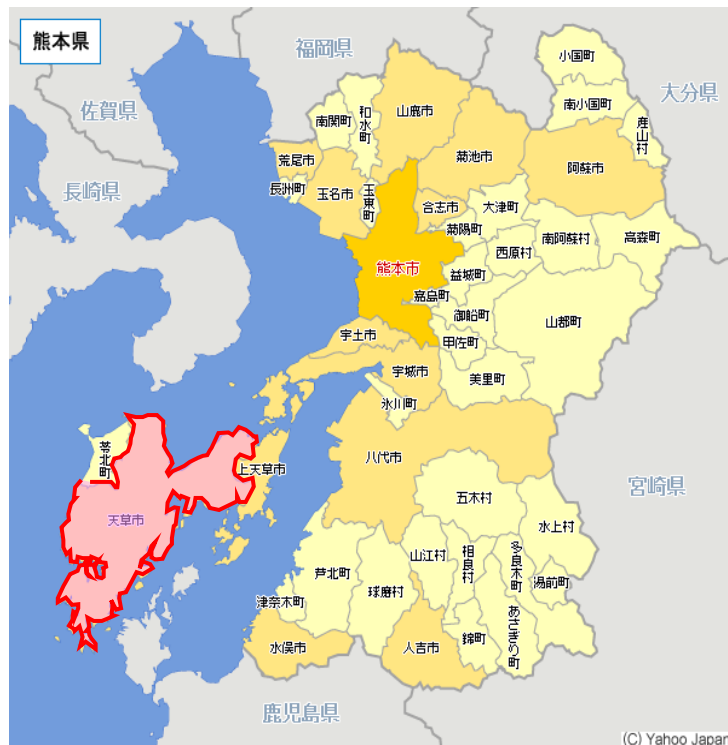
(2024年3月現在)

・面積683.2km²
(県内最大、平野部32%、山間部68%)

・福岡から35分の立地
(熊本から車で約2時間30分)

県下
3番目

県内
最大



< 市の木 >
あこうの木



< 市の鳥 >
かもめ



< 市の花 >
はまぼう



< 市の魚 >
鯛

美しい自然と歴史・文化・資源



ハイヤ踊り



崎津協会



多種多様な
水産資源



牛、豚、天草大王
など豊富な畜産物



天草陶石に始まる
陶磁器文化



恐竜の島₂

縄文時代から続く素潜り漁と野生イルカの共生



主にミナミハンドウイルカを見ることができる地域



哺乳類・肺呼吸

体長 約 1.8~2.7m
体重 約 170~200kg

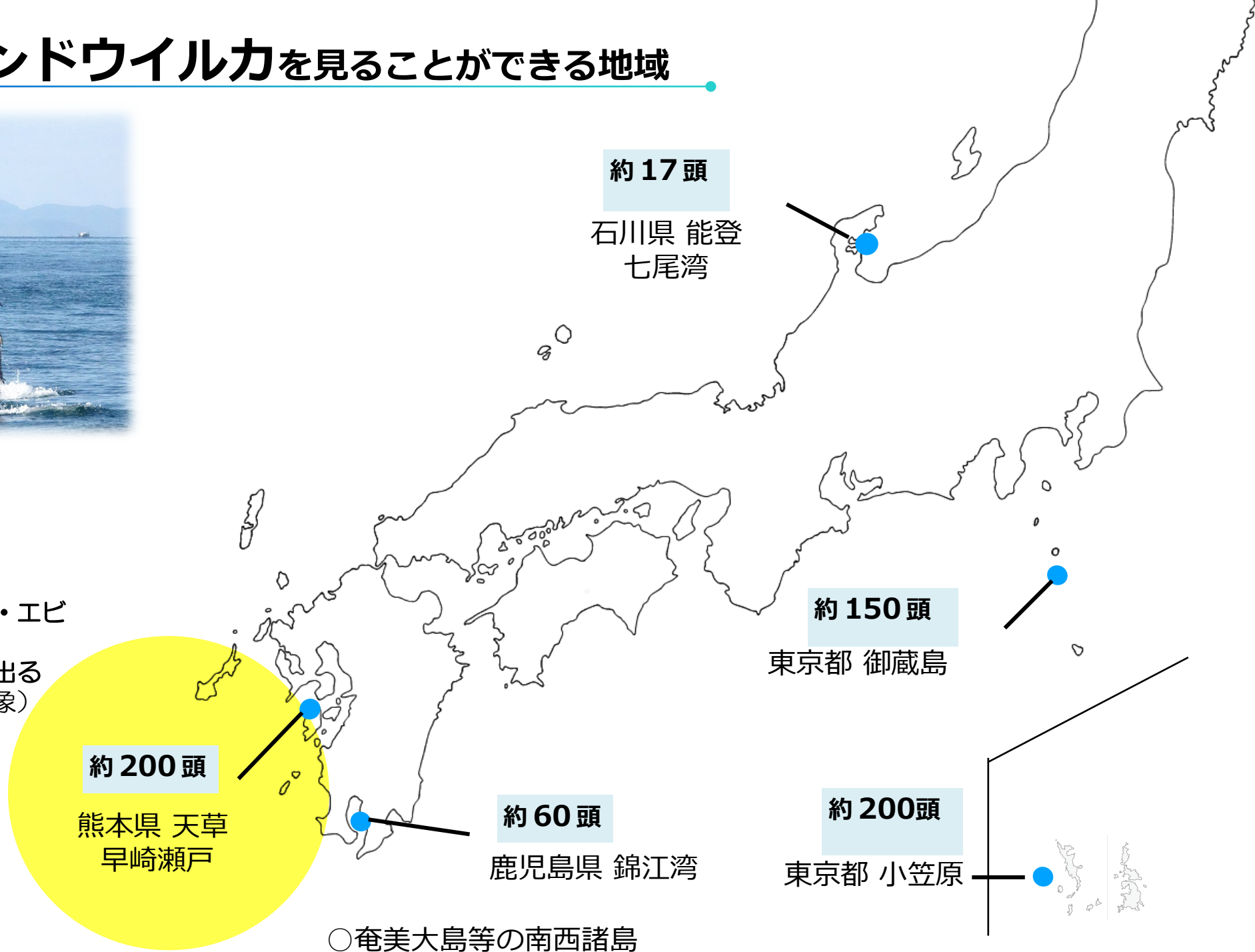
食性 魚全般、タコ・イカ・エビ

特徴 腹側にマダラ模様が出る
(老化現象)

寿命 約40~50年

数 150~200頭

特徴 内海 定住型



通詞島沖イルカ環境実態調査事業 (令和4年度開始)

背景

- 縄文時代からイルカと人（素潜り漁師）が共存・共生してきた歴史
- この海でイルカが生きていけることは豊かさの証明
- イルカと人（素潜り漁師）の絆であり、やさしさの象徴

現状の課題

天草のイルカや持続可能な海に対する価値の認識が不足している
※身近な自然環境が国際的に高い価値を持つことについての理解が不十分である

豊かな海の継続

イルカが生息する環境づくりの継続

人の生業の継続

事業目的

- イルカと人の共存・共生の歴史を守る仕組みづくり
- イルカが生息し続ける「奇跡の海」を守る仕組みづくり
- 教育、研究、環境、観光を軸とした本物の価値を残し繋げる仕組みづくり

事業内容

早崎海峡（通詞島沖）に生息するミナミハンドウイルカについて

- 生息数や行動など基礎的な情報を調査・収集
- 収集した情報を関係機関と連携を図り、教育・環境・観光事業に活用
- 大学や研究機関（アカデミア）との連携（当事業支援、調査研究受入）
- 専門家による人とイルカとの共生へ向けた調査業務





通詞島沖イルカ環境実態調査事業 (令和4年度開始)

背景

縄文時代から続くイルカと人（素潜り漁師）の共存・共生

全国では、イルカによる痛ましい事故が散見される中、天草市五和町の早崎海峡（通詞島沖）では、縄文時代からイルカと人が共存し、共生してきました。イルカが生息し続けること、それは豊かな海の証明です。イルカが生息し続けることができる環境実態を調査することで、豊かな海の保全を目指します。

現状の課題

天草のイルカや持続可能な海に対する価値の認識が不足している
※身近な自然環境が国際的に高い価値を持つことについての理解が不十分である

豊かな海の継続

イルカが生息する環境づくりの継続

人の生業の継続

事業目的

- イルカと人の共存・共生の歴史を守る仕組みづくり
- イルカが生息し続ける「奇跡の海」を守る仕組みづくり
- 教育、研究、環境、観光を軸とした本物の価値を残し繋げる仕組みづくり

事業内容

早崎海峡（通詞島沖）に生息するミナミハンドウイルカについて

- 生息数や行動など基礎的な情報を調査・収集
- 収集した情報を関係機関と連携を図り、教育・環境・観光事業に活用
- 大学や研究機関（アカデミア）との連携（当事業支援、調査研究受入）
- 専門家による人とイルカとの共生へ向けた調査業務

成果

01 実態調査（陸上、船上、聞き取り）、情報発信

- 個体識別：177頭
- 遭遇率：9割以上、また、年中毎日1頭でも遭遇できる確率は97%
- 年間6割の確率で、天草沿岸で見ることができる
- 干潮前後は、通詞島沖
- 満潮前後は、国道沿いで発見されることが多い
- 9月から12月にかけて遭遇率低下

02 学びのプログラム事業

※上記01 実態調査の結果を活用

- 館内ツアー、自由研究など毎年開催のべ参加者数；100名以上
- 各団体等受入れや出張講演；毎年20件以上

03 大学等との連携

※上記01 実態調査への助言など

- 学生による卒業論文；毎年1本



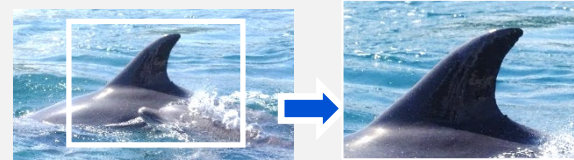
船上調査

01

実態調査（陸上、船上、聞き取り）、情報発信

生息数や行動など基礎的な情報を調査・収集

- 陸上調査（通年）
- 船上調査（4月～9月頃）
- 事業者等からの聞き取り調査（通年）
- 情報発信（SNS、メディア等）



天草のイルカの個体識別は、背びれで行う撮影し、トリミング後、識別を行う



館内ツアー

02

学びのプログラム事業

収集した情報を関係機関と連携を図り、教育・環境・観光事業に活用

- 拠点：天草市イルカセンター
- 各団体等受入、出張講演
- 館内ツアー（乗船前レクチャー）
- NTT労働組合 ドコモ九州総分会など
- 夏休み自由研究など
- 大阪教育大付属高等学校天王寺校舎教育旅行など



船上調査及び調査事業助言

03

大学等との連携

大学等との連携（当事業支援、調査研究受入）

- 長崎大学、帝京科学大学、人間環境大学
- 三重大学
- 当実態調査事業について専門的な支援（助言等）
- 調査研究受入（大学4年生）



三重大学・学生調査

これまでの取り組みと成果

成果

04 イルカと人との共生に向けた事業

- イルカウォッチングを取り巻く地域全体の課題の可視化
- あるべき姿策定による施策や取組に対する合意形成
- ★環境に配慮した取組への合意形成
- 「天草市イルカウォッチング事業者チーム設立」

イルカと人との共生に向けた事業

専門家によるイルカと人との共生へ向けた調査業務（未来への約束事）

04

- 関係者（行政・漁協・漁師・事業者）へ聞き取り
- 本事業のロードマップ策定及び地域のあるべき姿策定
- 上記、施策や取組への合意形成



天草市イルカウォッチング事業者チーム記者会見

イルカと人との共生に向けた取り組み（天草市のイルカウォッチング事業者）

イルカウォッチングを運営する6事業者による

“天草市イルカウォッチング事業者チーム”設立

「イルカと人との共生」に向けた

以下の取り組みを“**令和6年7月1日**”から開始！

- さらに、実践的な取り組みとして、**環境保護費導入**
→持続可能なイルカウォッチングを目指す

- ✓開始日：令和7年4月11日（金）～
- ✓対象者：イルカウォッチング参加者（小学生以上）
- ✓金額：500円
- ✓使途：ビーチクリーン開催費用

イルカの勉強会開催費用
繁忙期のパトロール船運航費用
お客様の安心安全確保のために必要な諸費用
漁業従事者のための藻場造成や稚魚放流など



イルカの勉強会



ビーチクリーン



パトロール船運航

イルカと共存できる環境づくりに向けた取り組み（令和7年度）

◎天草の海の資源を守り、環境・生業・観光を持続可能にする活動を行うことを目的に、地域やイルカ事業者チーム、イルカセンターなどとの連携を図りながら、「イルカと人との共生」という資源を、「教育・研究・環境保全・観光」等に活用し、持続可能な体制の構築に向けて取り組みます

環境教育の推進

- 豊かなフィールドを活かした体験学習の充実を図り、子どもたちの郷土愛と生きる力を育む
- イルカセンターを環境・学習拠点として活用することを目指す
・待ち時間を“価値ある”体験時間へ生まれ変わらせる！

➡天草市内小学4年生に向けた体験学習の実施（令和7年7月開始）



イルカの研究拠点

- 「イルカと人との共生」が続くこの奇跡の海で、学生や大学、企業等が出入りする研究の拠点化を目指す
・従来調査との相関・比較による奇跡の海の可視化等
・調査研究が進むことでイルカを含む資源の保全に繋げる

➡令和7年度・三重大学生調査研究



海域の環境保全

- 天草市イルカウォッチング事業者チームによる取組みの継続
- 地元ガイド養成や地域おこし協力隊による新たな価値の提供（環境配慮型プログラム導入）
- 環境（イルカ）に配慮した操船に向けた意見交換開始

➡共同運航便の試運航（令和7年9月15,23日実施）



観光の推進

- イルカウォッチング事業の高付加価値化・多様化に向けた意見交換の開始
- 観光×環境を推進することによる新たな関係人口創出の取組

➡ガイド付きイルカウォッチングの試運航（令和7年10月13日）
➡企業・団体・教育機関向け受入れ企画の実施

豊かな海の“生きた証明”であるイルカの存在



生態系の健全性

高次捕食者であるイルカが安定的に生息していることは、**食物連鎖のバランスが良好**であることを示しています。多様な海洋生物の共存が実現している証拠です。



水産資源の指標

イルカの存在は、**持続可能な漁場管理**ができていることの表れです。海域の生産性が高く漁業資源が豊かであることを意味します。



地域アイデンティティ

縄文時代から続く人とイルカの共生は、天草ならではの文化。**学び・文化・観光の核**となる貴重な自然資本です。



国際的価値

定住型イルカと人間の共生は世界的にも稀有な事例。**研究・教育・交流の拠点**としての可能性を秘めています。





脅威の最小化

気候変動・海洋ごみ・騒音・過度な接近を抑制し、イルカの生息環境を保全



科学に基づく管理

継続的なモニタリングと科学的な知見に基づいた適応的なルール作りの推進



次世代教育

学校・地域・企業で“共生”の価値を学ぶ環境教育の機会拡充



共創の体制

行政・漁業者・事業者・研究者・市民が連携するオープンな協働体制の構築



環境回復



時間の重要性



共創・協働



持続可能性

具体的な取組指標（例）

環境保全活動：ビーチグリーン回数・参加者数/藻場造成面積

教育普及：環境学習会参加者数/学校連携プログラム数

安全対策：事故ゼロ運航達成日数/マナー啓発件数

イルカが生息し続けていることは、豊かな海だからこそ実現できること。

その環境を未来へ繋いでいくために、ぜひ皆様のお力をお貸してください。



shiminkankyo@city.amakusa.lg.jp



0969-32-7861

天草市

市民生活部市民環境課

原田 拓郎